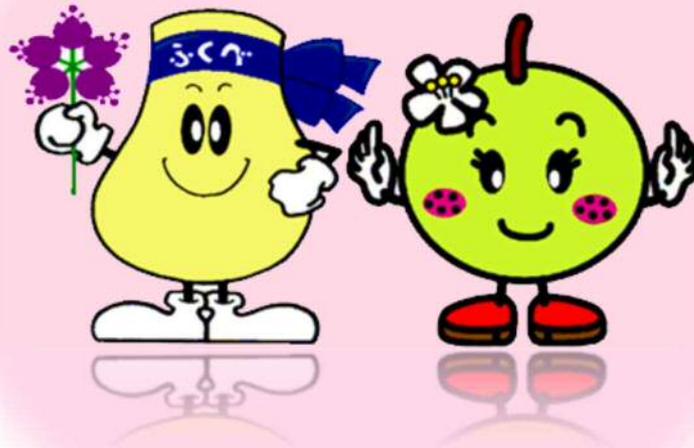


福部地域未来プラン

～いつまでも住み続けられるまちにするために

いまできることをみんなではじめよう～



鳥取市福部町総合支所

令和7年4月

目次

1. 目的位置づけ	1
2. 地域の現況	2
(1) 位置、地勢について	2
(2) 道路網の整備について	2
(3) 塩見川と治水について	2
(4) 人口について	3
(5) 市町村合併後の主なあゆみ	4
3. 地域の特性・資源	5
●特性 ●資源	
4. 地域の現状と課題、めざす将来像	6
I 地域の現状と課題	6
II めざす将来像	14

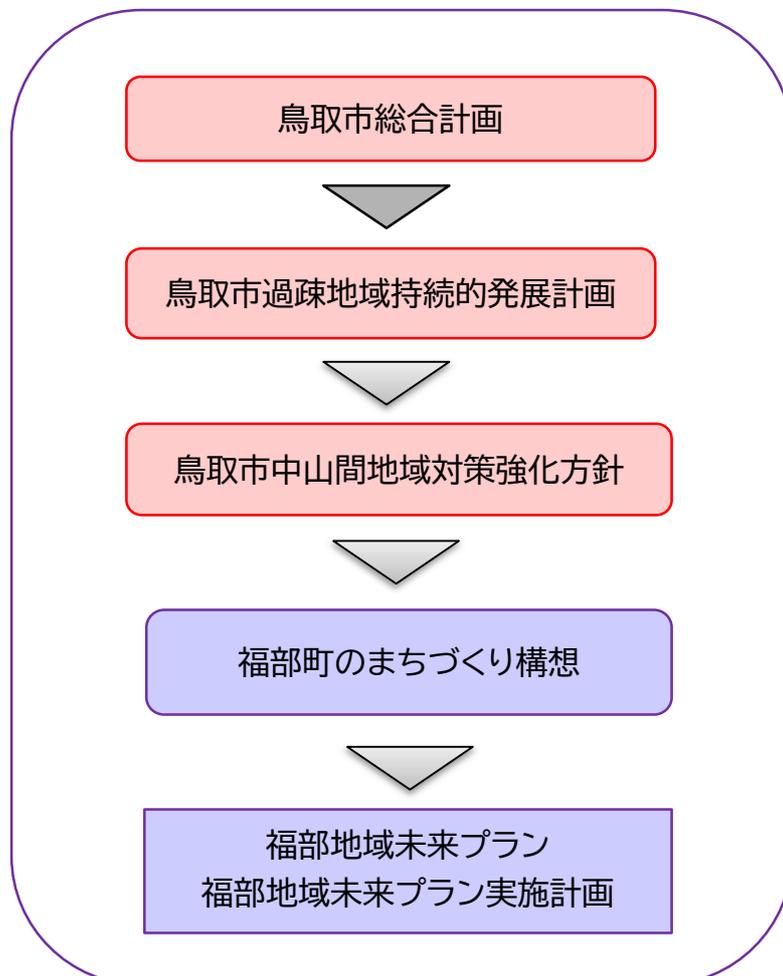
1. 目的位置づけ

平成16年11月の市町村合併以降、本市は各地域の資源を活かしたまちづくりを進めてきました。福部町では、「鳥取砂丘 砂の美術館」や「山陰海岸ジオパーク」といった鳥取砂丘の振興が進み、砂丘地で栽培されるらっきょうの花が「鳥取市の花」として制定され、また、砂丘らっきょうがブランド農作物として認定されるなど明るいニュースが続きました。

しかし、全市的な人口減少の中、福部町の人口も減少し続け、近い将来、地域の活力が失われていくことが顕著化してきました。

このことから、平成30年3月に鳥取大学地域学部調査業務を委託し「福部町のまちづくり構想」を策定しました。平成31年3月(令和6年3月改訂)には、まちづくりにつながるような具体的な方向を示す「福部町のまちづくり構想基本計画」を策定し、地域が一体となって特色あるまちづくりを推進しています。

本プランは、「福部町のまちづくり構想基本計画」を引き継ぐとともに、「鳥取市総合計画」、「鳥取市過疎地域持続的発展計画」及び「鳥取市中山間地域対策強化方針」などの関連計画と整合を図りながら、地域振興を目的とした未来に向けたプランとして位置づけます。また、計画期間は、令和7年度から令和11年度までの5年間とし、必要に応じて見直しを行います。



2. 地域の現況

(1) 位置、地勢について

福部町は、本市北東部に位置し、北は風光明媚な日本海、東は岩美町を境に接しています。

面積は、34.94km²で本市全体の約4.6%を占め、1割が砂丘地、2割が平地、7割が山地となっています。

福部町は、今から約5千年前の縄文時代には、既に人が住んでいたことが明らかとなっており、これを示す土器や石器が、直浪・栗谷遺跡から多数出土しています。これらの遺跡の成り立ちは、地理的に砂丘が大きく関係しており、福部町の歴史は砂丘から始まったとも言えます。



(2) 道路網の整備について

福部町は、近年2つの道路整備が大きく前進しました。

1つは、福部町北部地域を横断する「山陰近畿自動車道 駟馳山バイパス」です。この道路は、鳥取・兵庫・京都の3府県にまたがり、山陰海岸ジオパークに沿った整備が進められていることから「ジオパークロード」の愛称で親しまれています。

もう1つは、福部町南部地域を横断する「岩美広域農道」です。この道路は、農業経営基盤の強化や中山間地域の活性化はもとより、災害時の広域迂回路としての機能や周辺の観光地を結ぶ新たな観光道路として「美野梨ロード」の愛称で親しまれています。

(3) 塩見川と治水について

塩見川下流域は、流域の大きさに比べて河道が極端に小さく、勾配も緩やかであるため、幾度となく洪水被害に見舞われてきました。

昭和51年9月の台風17号により、駅前地区・湯山地区のほぼ全域が浸水したことを契機に、昭和54年から鳥取県による河川改修工事が継続して行われています。

平成29年には、河口から箭溪川合流部まで（延長1.2km）が整備され、住宅等への浸水被害の軽減が図られました。

現在は、箭溪川合流部からJR鉄橋付近まで（延長1.6km）の整備が進められています。

また、排水ポンプ車や緊急排水ポンプを駅前地区に設置するなど、治水対策に取り組んでいます。

(4) 人口について

■人口

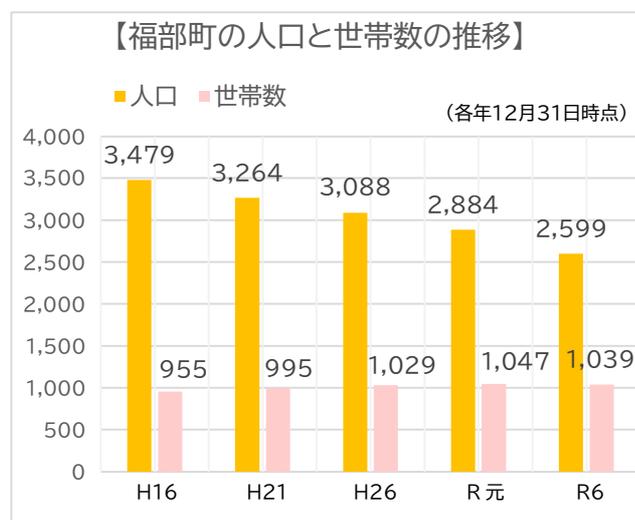
平成16年は3,479人でしたが、令和6年には2,599人まで減少しています。

その割合は、合併後20年間で約25%減少しています。

■世帯

平成16年は955世帯でしたが、令和6年には1,039世帯と増加しています。

その割合は、合併後20年間で約9%増加しています。

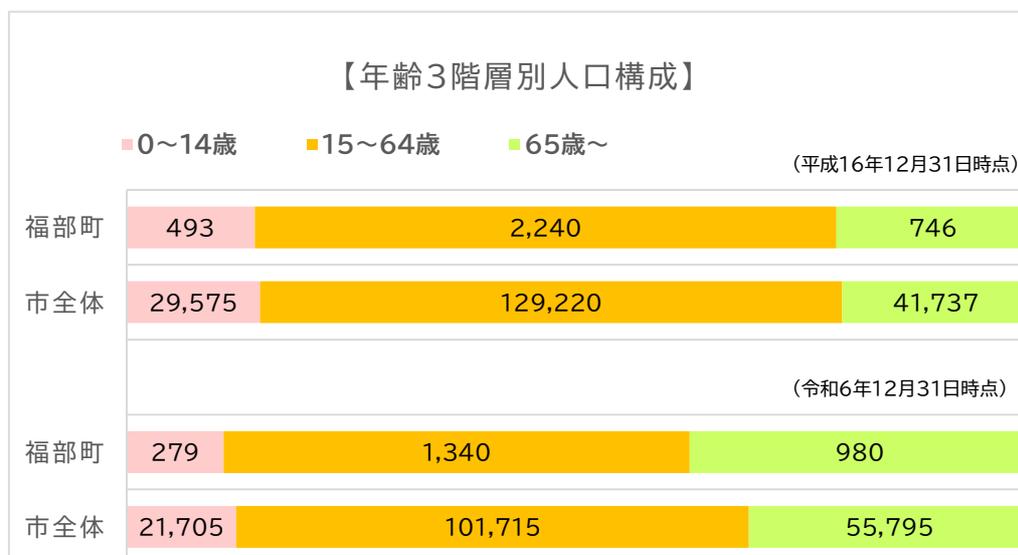


■少子高齢化の進行

市町村合併当初は、福部町の「年齢3階層別人口構成」は本市全体の平均値とほぼ同等でしたが、約20年を経た現在の構成は、本市全体より早く少子高齢化が進行していることがうかがえます。

このことから、今後何も対策を講じなければ、福部町の少子高齢化はますます進行し、地域の活力低下は避けられない状況となっています。

また、高齢化率は、令和6年12月31日現在で37.7%となっています。



(5) 市町村合併後の主なあゆみ

年度	内 容
平成16年	らっきょう販売高が10億円突破
平成17年	福部中学校体育館が完成 らっきょうの花が「鳥取市の花」に制定
平成18年	岩美広域農道「上野～美歎間」が開通 「鳥取砂丘 砂の美術館」が開館
平成20年	岩美広域農道「蔵見～岩美間」が開通 福部町内循環バス「らっちゃんバス」 ^{注1} が運行開始
平成22年	山陰海岸ジオパークが世界ジオパークに認定
平成23年	福部地域振興プランを策定
平成24年	「鳥取砂丘 砂の美術館」が世界初の砂像展示専門の屋内美術館として開館
平成26年	「山陰近畿自動車道 駈馳山バイパス」が開通 福部郵便局が福部町総合支所内に移転
平成27年	福部地域振興会議がスタート
平成28年	砂丘らっきょうがGI ^{注2} 認証取得 福部未来学園が開校
平成29年	岩美広域農道が全線開通 新たなインターチェンジ設置の要望活動が開始 福部町のまちづくり構想を策定
平成30年	福部町総合支所庁舎耐震改修工事着工
令和 元年	福部町総合支所庁舎耐震改修工事完成
令和 2年	福部町コミュニティセンター改修工事、福部町多目的ホール増築工事が完成し、複合化施設となる
令和 4年	鳥取市過疎地域持続的発展計画の過疎地域として新たに指定



らっきょうの花(鳥取市の花)



福部未来学園

注1) らっちゃんバス：公共交通空白地有償運送制度で運行される福部町内循環バス

注2) GI：地理的表示(Geographical Indication)

3. 地域の特性・資源

●特性

- ①海岸線は、山陰海岸国立公園および山陰海岸ジオパークエリアの一部になっており、特に鳥取砂丘は東西16km、南北2kmと日本最大規模を誇り、年間を通じて多くの観光客が訪れ、本市のみならず鳥取県を代表する観光地となっています。
- ②砂丘地で栽培される「鳥取砂丘らっきょう」、「ふくべ砂丘らっきょう」は、全国有数の出荷量とその名を全国に知られた鳥取県を代表する特産品として確立されており、平成28年3月に地理的表示保護制度（GI制度）に登録されています。また、本市の花でもある赤紫色で可憐な「らっきょうの花」は、鳥取砂丘の新しい観光資源として全国に情報発信しています。
- ③鳥取砂丘に近い湯山地区は、砂丘観光と連携した観光梨園や直売所が多数あり、積極的に観光農業を実践しています。
- ④福部町の南部地域は、水稻栽培を中心とした純農村地帯であり、農家のほとんどは第2種兼業農家です。

●資源

区分	主なもの
特産品	梨 らっきょう エシャロット 砂たまご 砂コーヒー わかめ 岩がき
観光	鳥取砂丘 鳥取砂丘砂の美術館 砂丘温泉ふれあい会館 福部海岸 らっきょう畑 観光梨園 多鯨ヶ池・お種弁天 ^{注3}
イベント	鳥取マラソン(3月) 鳥取すごい！ライド(10月) 鳥取砂丘らっきょう花マラソン大会(10月) 公民館まつり ^{注4} (11月) 福部アイデア館まつり(11月)

注3) お種弁天(多鯨ヶ池弁天宮)：お種弁天は多鯨ヶ池の湖畔にあり、白蛇伝説が語り継がれている弁天宮

注4) 公民館まつり：令和6年度は「福部町秋のふくふくまつり」として開催

4. 地域の現状と課題、めざす将来像

I 地域の現状と課題

福部町は、町中心部に鳥取市福部町総合支所、J R福部駅、福部未来学園、福部町コミュニティセンターなどの公共施設をはじめとしたインフラがコンパクトに整備されています。

また、福部町北部の日本海沿岸には、山陰海岸ジオパークの代表的なジオサイトである鳥取砂丘を有し、砂丘地を利用したらっきょうや梨の栽培が盛んな観光と農業を基幹産業とする町です。

しかし、福部町では、人口減少と高齢化が進行しており、地域の活力低下は避けられない状況となっています。また、交通の利便性も十分ではなく、住民、観光客の移動手段の確保についても検討が必要です。

福部町中心部を貫流する塩見川は、鳥取県による河川改修工事が実施されていますが、浸水被害の完全解消には至っていない状況です。

このことから、次に掲げる4つの柱に沿った施策で、これらの課題解決に取り組む必要があります。

4つの柱に沿った施策

【方針】

いつまでも住み続けられるまちにするために、いまできることをみんなではじめよう

【施策の柱】

柱1
交流
のための
基盤づくり

柱2
にぎわい
のある
まちづくり

柱3
誰もが
住みよい
まちづくり

柱4
災害等に
強い
まちづくり

【施策】

(1)
地域資源を活かした観光
振興

(2)
山陰近畿自動車道の
新インターチェンジの設置

(1)
中山間地域の振興

(2)
地域教育の充実

(1)
居住促進の取組

(2)
地域共生社会の実現に
向けた取組

(1)
治水対策の強化等

(2)
防災・防犯対策の充実

【細施策】

①山陰本線福部駅を拠点
とした賑わい創出と鉄
道利用促進
②地域資源の磨き上げ

①要望活動の推進
②渋滞解消の推進

①経済活動の促進
②地域特産品の充実

①多様な学びの場の創出
②郷土愛の醸成

①公共施設の活用
②公共交通機関の確保と
アクセス向上
③空き家対策、移住定住
施策の推進

①生涯学習・生涯スポーツ
の推進
②地域食堂の充実

①塩見川河川改修事業等
の推進

①防災施設の整備と防災
活動の強化
②通学路の防犯灯の充実
③自主防災活動の充実

実施計画（別に策定）

柱1. 交流のための基盤づくり

(1) 地域資源を活かした観光振興

① 山陰本線福部駅を拠点とした賑わい創出と鉄道利用促進

福部駅は、明治43年に塩見駅として新設され、昭和24年に「福部駅」に改称されました。その後、昭和47年の無人駅化を経て現在に至っています。

令和4年に地元団体が福部駅舎周辺整備に着手し、福部駅を賑わいの拠点とする取組がスタートしました。



福部駅



福部駅周辺の将来イメージ

塩見川は、塩見川河川改修後、新しい塩見川がJR福部駅と現在の塩見川の間を整備され、川幅は現在の2倍程度に拡幅となり、それに伴い新たな橋梁も整備される予定です。福部町では、このタイミングで老朽化した駐輪場や駅前広場を更新し、地域住民や観光客が利用しやすい福部駅となるよう取り組みます。

② 地域資源の磨き上げ

福部町は、鳥取砂丘オアシス広場を中心に県内有数のスポーツイベントの開催地となっています。

昭和62年にスタートした「鳥取砂丘らっきょう花マラソン大会」は、令和6年に第38回を迎え、近年では、鳥取マラソンなども開催されるようになりました。

鳥取砂丘に近い多鯰ヶ池では、地元団体による活性化を目的としたイベントが通年で開催されるようになり、新たな観光スポットとして注目されています。今後も、福部町がスポーツイベントの適地であることの可能性をさらに探求していきます。



鳥取砂丘らっきょう花マラソン大会



多鯰ヶ池 カヤック体験

鳥取砂丘や多鯨ヶ池以外にも、福部町内には坂谷神社や鶏岩など、磨けば光る地域資源が多く存在しています。

これらの地域資源を磨き上げ、町外から訪れる人も「らっちゃんバス」が利用できるよう検討を行い、周遊、観光ができるようなまちづくりに取り組みます。



坂谷神社

(2) 山陰近畿自動車道の新インターチェンジの設置

① 要望活動の推進



山陰近畿自動車道の整備状況

山陰近畿自動車道の整備が進み、今後、北近畿方面からの自家用車による観光客等の増加が見込まれます。

しかし、現在も行楽シーズンには、鳥取砂丘周辺の道路が渋滞し、地域住民の生活に影響が出ていることから、抜本的な対策が必要です。

観光客等が福部インターチェンジ（IC）や覚寺交差点へ集中することによる渋滞を避けるため、山陰近畿自動車道と市道海士海岸線が交差する付近(福部ICと大谷ICの間)に、新たなインターチェンジを設置するよう要望活動を推進していきます。



鳥取砂丘周辺の渋滞状況

② 渋滞解消の推進

福部町内には、渋滞解消につながる新たな駐車場の適地がありません。

旧コミュニティセンターの解体後の跡地利用の検討を進める中で、新たな駐車場としての可能性を探ります。



旧コミュニティセンター

柱2. にぎわいのあるまちづくり

(1) 中山間地域の振興

① 経済活動の促進

岩戸漁港では、海女の就業を契機に岩戸産の魚介類の高付加価値化が進んでいます。

引き続き、就業を支援するとともに、町内産の海産物や農産物を使った商品開発等を推進します。

また、福部町中心部や鳥取砂丘周辺でマルシェなどのイベントが定期的で開催されることを通じて、地域で生み出された「モノ（商品やサービス）・コト（体験や経験）」が地域で循環されるしくみの定着をめざします。



岩戸産わかめの収穫



福部町秋のふくふくまつり

② 地域特産品の充実

福部町で砂丘らっきょうの生産が開始されてから100年余りが経過しました。

しかし、生産現場では機械化の遅れや人手不足など多くの課題を抱えています。

引き続き、これらの問題解決に取り組むとともに、農業の自動化や脱炭素に向けた取組など、新たな技術の普及をめざします。



らっきょうの収穫

福部町には、砂丘らっきょうの他にも二十世紀梨などの優れた特産品があり、鳥取砂丘周辺の観光梨園は、シーズン中は多くの観光客でにぎわいます。

引き続き、砂丘らっきょうと同様に地域特産品として充実するよう取り組みます。



梨の袋掛け

(2) 地域教育の充実

① 多様な学びの場の創出

町内産の砂丘らっきょうや梨などの農産物、岩戸漁港の海産物に付加価値を付け、魅力的な観光資源として全国発信できるよう、農業体験や地域住民とのふれあいの機会を充実します。こうした取組を通じて若手後継者の育成を図ります。



らっきょうの植え付け

② 郷土愛の醸成

福部未来学園の特別の教科等「みらい」では、福部の自然や地域の人々からの学びを通じ、豊かな人間関係や地域の未来を考える

「ふるさとキャリア学習」を実践しています。

また、保護者を中心に有志で立ち上げた団体が、旧福部中学校の空き教室を活用して、地元の資源を活用した体験教室を実施しています。

引き続き、魅力ある学びで郷土愛に溢れた子どもの健全育成を進めます。



職場体験(ワクワク福部)

柱3. 誰もが住みよいまちづくり

(1) 居住促進の取組

① 公共施設の活用

本市では、旧校舎などを活用した新たな取組が進んでいます。

福部町でも旧福部中学校舎^{注5}、旧福部幼稚園舎^{注6}、旧福部町寄宿舍^{注7}などが活用されており、これらの施設のさらなる活用を図ります。



旧福部中学校舎

注5) 旧福部中学校舎：福部未来学園

注6) 旧福部幼稚園：福部地域活性化拠点施設(旧福部幼稚園)

注7) 旧福部町寄宿舍：子育て支援センター(寄宿舍)

② 公共交通機関の確保とアクセス向上

地域交通として定着したらっちゃんバスは鉄道や路線バスとのアクセスが十分ではありません。

経路や時間帯を見直し、利便性を向上させるとともに、利用者のニーズに合わせたライドシェア^{注8}など新たな移動手段の可能性を検討します。



らっちゃんバス

③ 空き家対策、移住定住施策の推進

定住人口を維持するためには、関係人口の創出や地域主体の空き家対策が重要です。休業中の民宿等を活用した体験型民泊の推進や、空き家データを集約・活用した移住定住希望者への積極的なマッチング、情報発信も必要なことから、今後こうした取組を推進します。



ゲストハウス

(2) 地域共生社会の実現に向けた取組

① 生涯学習・生涯スポーツの推進

誰もが住みよい地域共生社会の実現には、住民が生涯学習や生涯スポーツに積極的に参加し健康管理に努めるとともに、地域のつながりをつくることが重要です。こうした取組が前進するよう、住民が集い学べる場の充実に取り組みます。



グラウンドゴルフ

② 地域食堂の充実

地域食堂は、参加者同士や運営ボランティア同士がお互い支え合い、世代や分野を越えてつながる場としての役割を担い、地域共生社会の実現に貢献する取組です。

社会福祉協議会や支援企業、支援団体等と協力し、利用者に様々な体験や交流の機会が提供できるよう取り組みます。



らっちゃん食堂

注8) ライドシェア：ライドシェアリングとは、ウェブサイトやモバイルアプリを介し、専用の貸し切り車両を運転する運転手と乗客をマッチングさせるサービス

柱4. 災害等に強いまちづくり

(1) 治水対策の強化等

① 塩見川河川改修事業等の推進

塩見川の河川改修事業の進捗により、福部町総合支所周辺の浸水被害は軽減しました。

しかし、豪雨災害は全国的に増加傾向にあることから、本事業の早期完成を推進するとともに、流域の関係者が協働して行う「流域治水」に取り組みます。

「天然のダム」とも呼ばれる水田の保水機能を維持するため、塩見川水系上流域に位置する、福部町南部の豊かな水田における農業生産活動を支援し、災害に強い持続可能な中山間地域づくりを進めます。



塩見川水害状況

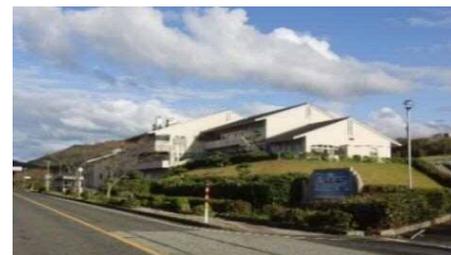


左近集落の水田風景

(2) 防災・防犯対策の充実

① 防災施設の整備と防災活動の強化

砂丘温泉ふれあい会館は、福部地域の避難場所として指定されています。今後、アクセス向上などさらなる防災体制の拡充に努め、災害に強いまちづくりを進めます。



砂丘温泉ふれあい会館

② 通学路の防犯灯の充実

通学路の安全性をさらに向上させるため自治会やまちづくり協議会が事業主体となり設置した防犯灯の維持管理に努めています。

今後は、防犯カメラの設置について検討します。



防犯灯

③ 自主防災活動の充実

地域住民で組織する自主防災会、消防団および行政等が連携し、防災学習や訓練などを定期的実施します。

また、自主防災会の母体となる自治会の組織力を高めるため、自治会加入率の向上に努めます。



防災フェア

II めざす将来像

いつまでも住み続けられるまち 福部町

福部町の基幹産業である観光と農業を強化し、「自然と調和し多くの人に親しまれる魅力に満ちた観光地」として、今後もますます発展していくことをめざします。

また、山陰海岸ジオパークの美しい自然と人情豊かな福部町の中で、住民相互が交流を図り、郷土愛を育み、誰もが生きがいを持ち、健康で快適な暮らしができる協働のまちづくりを推進し、次世代につながる「いつまでも住み続けられるまち 福部町」をめざします。

